

2024年度 第34回こうさい療育・支援セミナー「力を引き出す日中活動」

実践報告③

「青年期の日中活動を充実させるために
～就労継続支援B型事業所で導入した
新たな取り組みの検証～」

地域生活支援課 河野 興承

2025年2月28日（金） 15：00～

弘済学園デイケアセンターの概要

- 2009年 生活介護事業所「弘済学園デイケアセンター」を開設
- 2018年 就労継続支援B型を開設し、多機能型事業所となる（定員 各15名）

療育・支援の目的

18歳で高等部を卒業後のしばらくの間は「能力開発が十分期待できる年齢」と捉えており、学習で得てきた力を礎に、一人ひとりの育ちに寄り添い「生きる力」を身につけることを目指している

それぞれにふさわしい暮らしの場、活動の場へのステップアップを目指し、いきいきと生きる人生のための支援を行っている

支援のベース「能力内自立」「円満な人格形成」＝弘済学園の基本理念

現在の利用者状況＝障害の重い方が多い

生活介護	男性9名、女性2名	計11名	平均支援区分5.0	手帳	全員重度
就B	男性7名、女性1名	計8名	平均支援区分3.3	手帳	半数が重度



新たな取り組みを導入した経緯

授産、生活介護の頃から、外部から発注された部品の組み立てや古本事業、農作物の生産なども行ってきた

しかし、・・・工賃の向上にはつながらなかった

・これまで工賃が上がらなかったのはなぜか？

→「福祉」での販売では、助け合いの精神的な購入となることが多く、継続的な購入には至らなかった

そのため

・「福祉で売るのではなく、市場で選ばれる商品を生産する」ことを目指すことができないか？

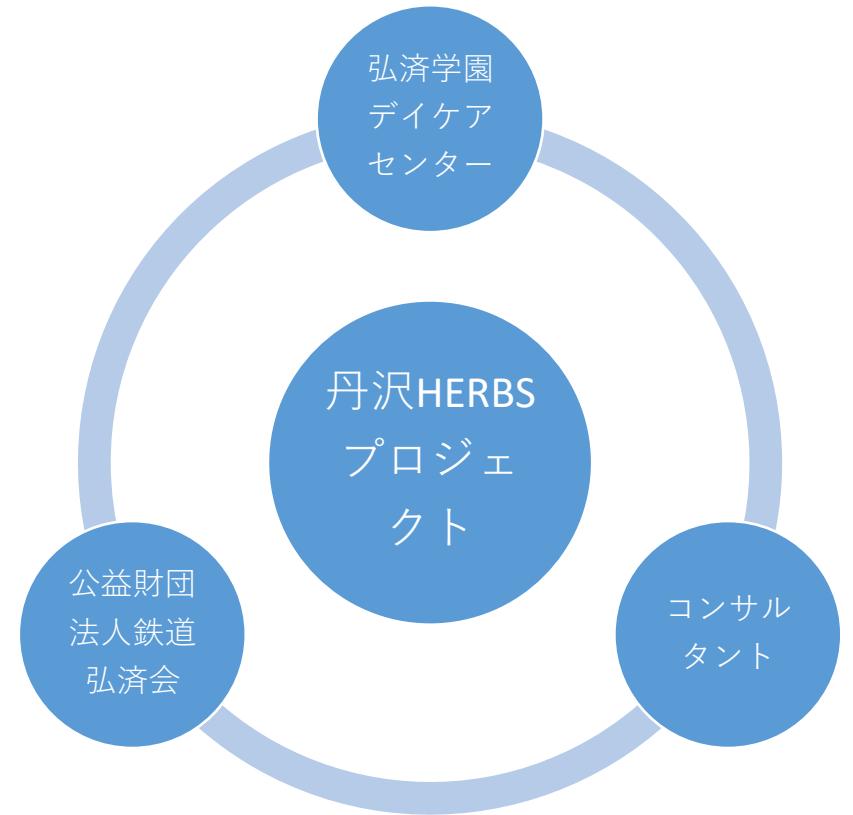
→すべて自前で考えるのではなく、外部の専門機関と連携しながら事業展開していく
(ブランディング、商品開発、パッケージデザイン、販売戦略…)

ここから、新たな取り組みを導入することとなった



新たな取り組み

丹沢HERBSプロジェクト



土と水と手と。

1500メートル級の山々に囲まれた
神奈川県北西部、
自然豊かな丹沢の端っこに
私たちの農園があります。
この場所で落ち葉を拾い、
足で踏み、腐葉土をつくる。
その栄養ある土を畑に混ぜ、
苗を植え、天候を見ながら水をやる。
草を抜き、虫をとり、
成長を見守り、収穫する。

特別なことは何一つしていませんが、
その一つひとつを
すべて手作業で行っています。
化学肥料も農薬も使わない。
丹沢の土と水と手だけで、
国産「丹沢ハーブ」はつくられています。
そして、収穫したハーブを洗い、
乾燥させ、もみほぐし、
ブレンドごとに選り量り、袋に詰める。
それが、国産「丹沢ハーブティー」の
製造方法です。

だから、その年のハーブの獲れる
種類や量によって、販売できるブレンドや
出来栄も少しずつ異なります。
でも、そうした自然の豊かさも含めて
楽しんでもらえたら。
日々の生活の中に、その時ならではの
美味しさを採り入れてもらえたら。

私たちが丹精を込めて、
丹沢の自然とつくったハーブの
恵みをご堪能ください。

丹沢HERBSプロジェクトチーム立ち上げ

弘済学園（デイケアセンター） 「育成・生産」

利用者

弘済学園 副園長、デイケアセンター職員

サポート 事務所職員



公益財団法人鉄道弘済会（法人本部） 「渉外・販売」

常務理事

社会福祉第二部 部長、課長、職員

サポート 理事・調査役



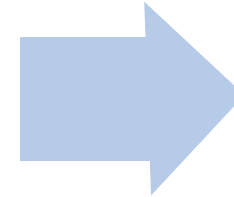
upsetters inc.（コンサルタント）

「マネジメント・商品化」

コンサルタント

シニアハーバリスト

デザイナー、カメラマン



目標

工賃の向上

課題の整理と共有

(現状)		花苗	路地野菜	果樹
作業	メリット	<ul style="list-style-type: none"> 種まきなどの巧緻性の高い作業から、花苗の運搬など粗大な作業などの幅が広く、バリエーションが豊富。 屋外作業であるがゆえに、青年期において基礎体力を高めることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のボランティア活動の交流の場として活用できる。 	<ul style="list-style-type: none"> 花が咲き、結実し、色づく過程が目で見えて分かりやすいため、見通しが持ちやすい。
	デメリット	<ul style="list-style-type: none"> 生活介護のような重たい障害のある方へのメニューが少ない。主に、運搬作業が中心となり、バリエーションが少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> 種まきや定植を行ってから、収穫までの期間は、除草くらいしか作業がない。 日常的に、利用者からの参加率が極めて低い。 保存期間が長い、食害の被害の少ない品目に限定される。 根もの野菜が主であり、成長過程が目に見えないため収穫時期の見通しが持てない。 	<ul style="list-style-type: none"> 収穫期が限定されるため、周年を通しての作業がない。 摘果や選定など、高次の作業が多く、生活介護のような重たい障害のある方へのメニューが少ない。 草刈りなど環境整備を中心とした運搬作業が多く、バリエーションが少ない。
課題 1		<ul style="list-style-type: none"> 価格が安価である。 比較的経費が割高になるため、生産量を増やしても利益率アップにはつながりにくい。 購入者の高齢化(顧客はほぼリピーター)。 若い世代はポット苗を積極的に購入しないため、ニーズの先細りが予想される。 	<ul style="list-style-type: none"> 無肥料無農薬の「自然栽培」という付加価値が価格に反映されないという現状がある。 安定した販路が確保できない。 卸業者を活用しているが、同じ時期に同じ作物が集中するため、コンスタントに受け入れてもらえない。 	<ul style="list-style-type: none"> 栽培場所が遠隔なため、こまめな観察と、適宜手を入れることが難しい。 動物による食害が年々増加している。 各年の収穫のため、毎年安定した収入を得ることが難しい。
課題 2 利用者の増員を見込んだ際の課題		<ul style="list-style-type: none"> 屋外作業が多く、室内作業が少ない。 障害の重い生活介護に関しては、粗大運動に関わる作業の提供のみであり、指先を使った作業の提供ができていない。 通過型であるため、様々な体験を通して次のステージにつなげていく必要がある。 		

課題の解決へ

先の課題に対し、これまでの実績やノウハウを活かしつつ、利用者の持つ能力を活かせる作業で工賃向上を目指すため、外部の専門機関であるコンサルタントのマネジメントを受けハーブを始めることとした。

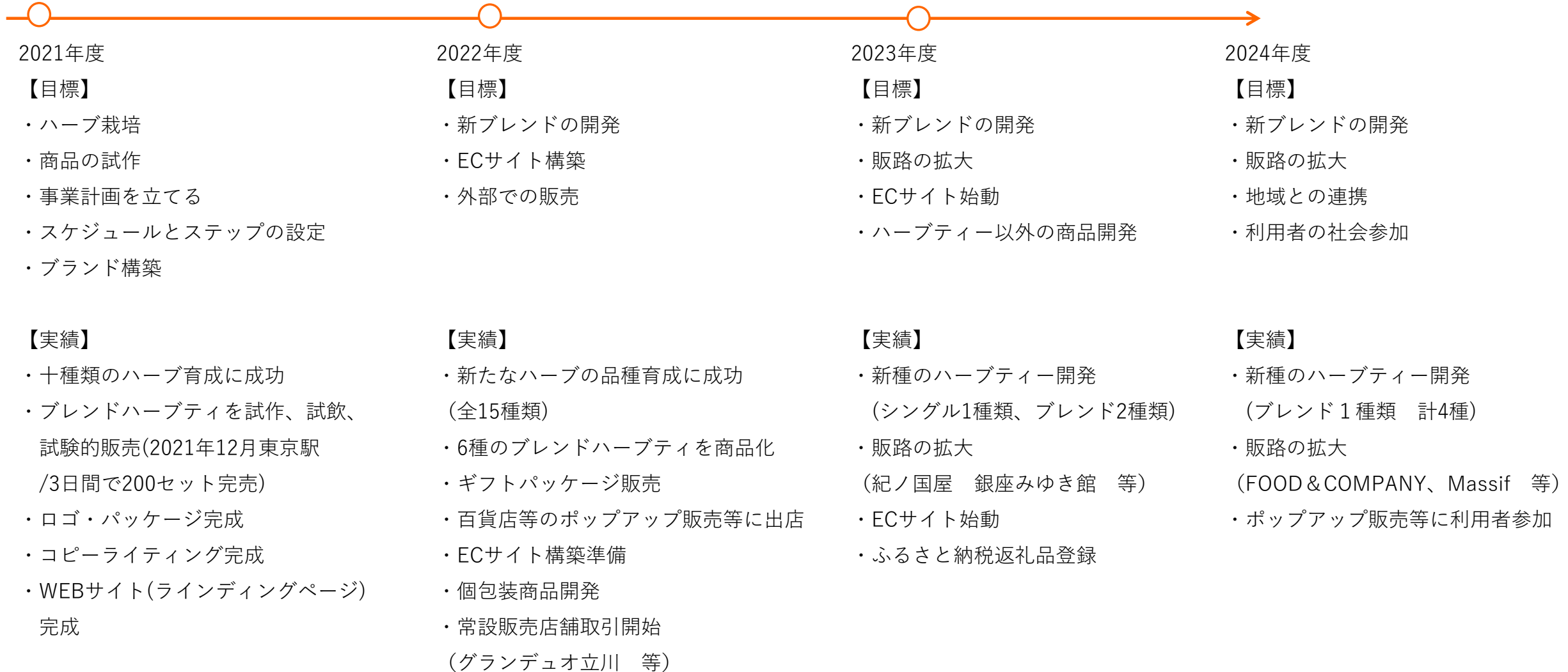
【ハーブのメリット】

- ①これまでの花苗栽培のノウハウ・設備をそのまま生かせる
- ②これまで丹念に育てた肥沃な土壌（畑）の活用
- ③付加価値のある利益率の高い商品づくりが可能⇒**工賃向上**
- ④栽培から加工までの様々な工程で、利用者の特性に合わせた作業の振り分けが可能⇒**作業種のバリエーション確保**



丹沢HERBSプロジェクトの目標と実績

コンサルタント・法人本部・デイケアセンターのプロジェクトメンバーで月1回の定例会を行い、ハーブの育成や販路拡大について検討を行い、以下のとおりプロジェクトを進行してきた。



販路・販売実績

2021年（作品展示会）わたしたちが創る展

2022年（ポップアップストア）ルミネアグリマルシェ、川崎駅開業150年イベント
（店舗販売）グランデュオ立川、JRE MALL、丹沢日和

（作品展示会）わたしたちが創る展

2023年（ふるさと納税返礼品登録）秦野市

（ネット販売）自社ECサイト

（ポップアップストア）ルミネアグリマルシェ

（店舗販売）グランデュオ立川、紀ノ国屋

（カフェ提供用商品他）銀座みゆき館、メゾンカカオ

（作品展示会）わたしたちが創る展

2024年（ネット販売他）自社ECサイト、秦野市ふるさと納税返礼品

（ポップアップストア）ルミネアグリマルシェ、青山ファーマーズマーケット

（店舗販売）グランデュオ立川、紀ノ国屋、銀座みゆき館、

FOOD & COMPANY

（カフェ提供用商品他）銀座みゆき館、Massif、ライフプラスアーキテクト、

FOOD & COMPANY

（作品展示会）わたしたちが創る展

弘済学園 作品展・療育相談会 わたしたちが創る展 2021年～



ポップアップストア ルミネ アグリ マルシェ 2022年～



2022年 販売実績

JRE MALL café
(JR横浜駅)



グランディオ立川
(JR立川駅)



丹沢日和
(秦野駅)



川崎駅
150周年イベント



2023年 販売実績

かながわけん はだのし
神奈川県 秦野市

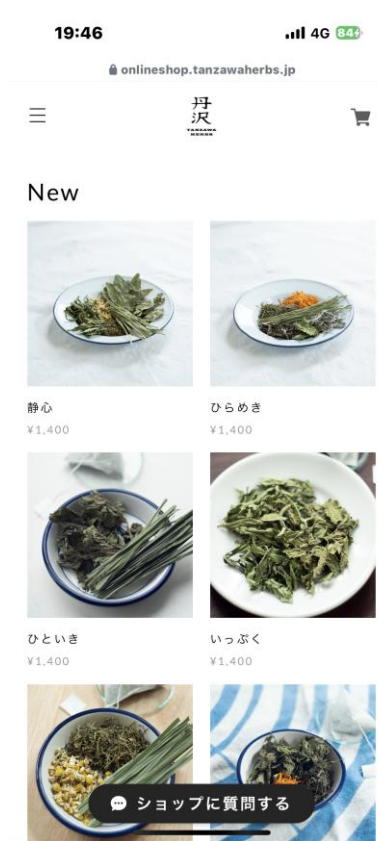
丹沢の自然の中で丹精込めて育てた純国産ハーブティー(2種)をお届けします
010-56丹沢ハーブティー(2袋セット)



🔍 画像を拡大する



ふるさと納税返礼品登録



自社ECサイト



銀座みゆき館

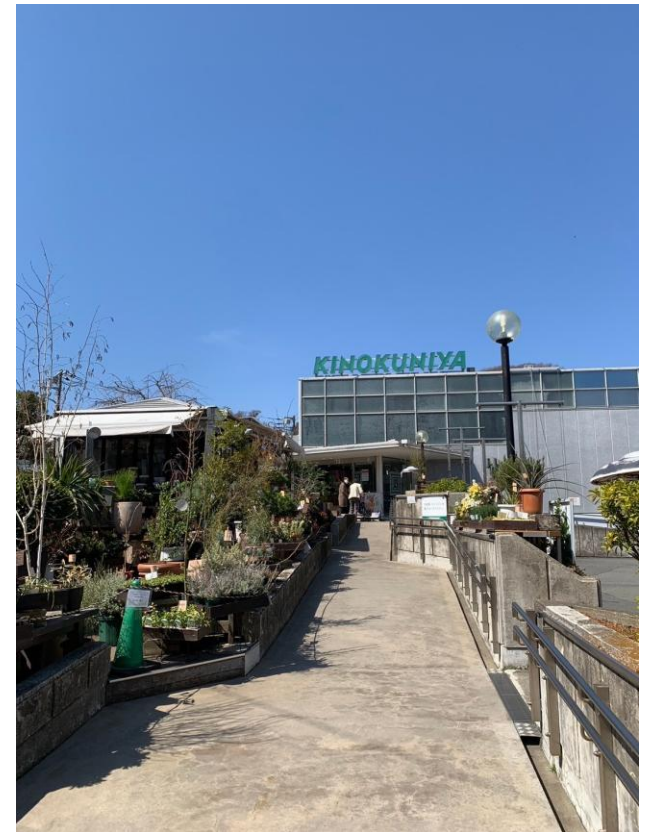


メゾンカカオ



紀ノ国屋

2024年 販売実績

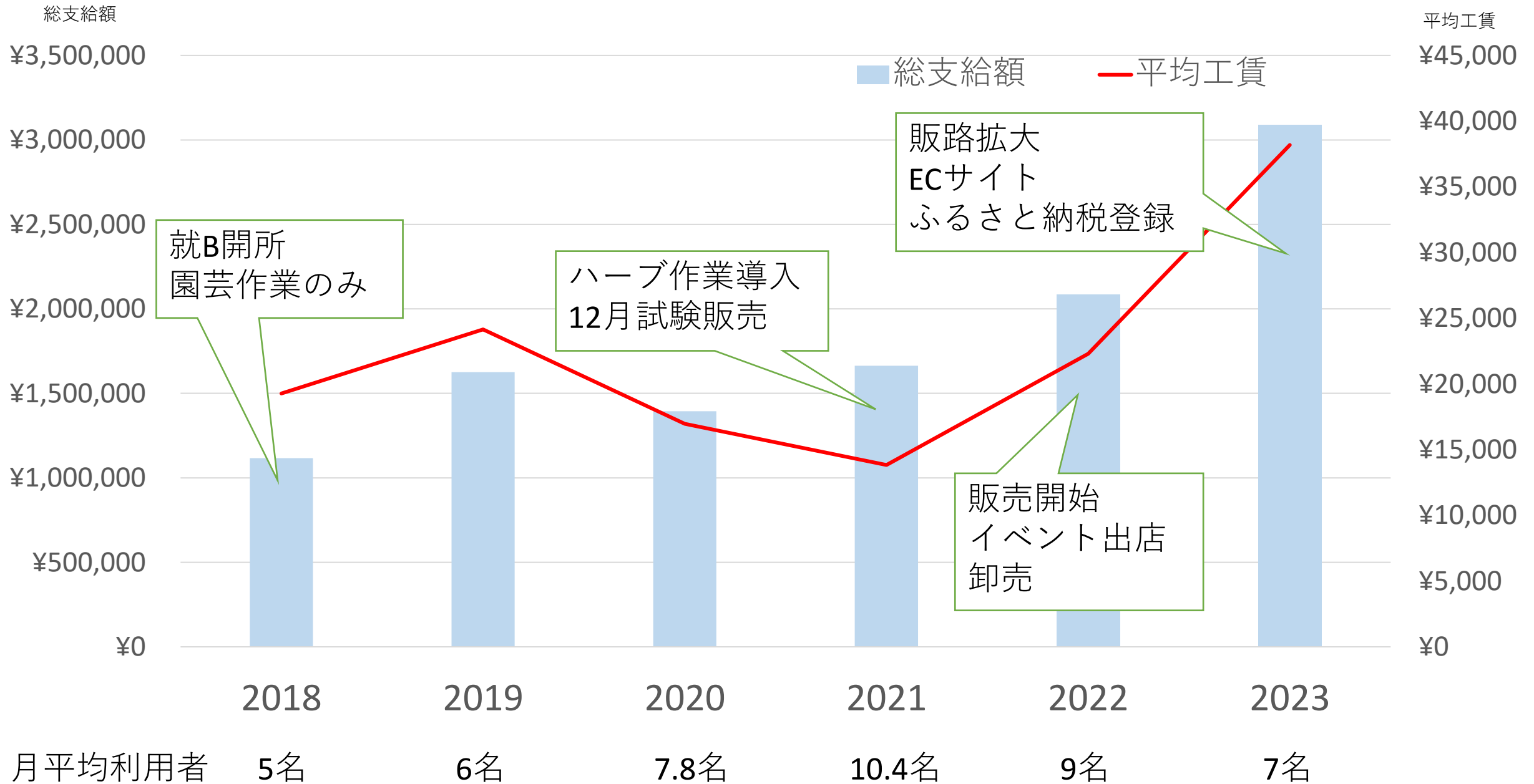


FOOD & COMPANY YYYard ゆめが丘ソラトス

青山ファーマーズマーケット

紀ノ国屋 試飲会

総支給額と平均工賃の推移



新しい作業を導入するにあたり配慮した点

1. もともと行っていた園芸作業からの応用



2. 治具、設定の活用



3. 利用者のモチベーションを上げる



PRESS・SNS

・ 2022.02.10 yahoo! ニュース
気分で選べる香り豊かなハーブティー！



・ 2022.12.7 毎日新聞
「丹沢ハーブティー」人気 福祉ではなく品質で



・ 2023.04.25 日経MJ電子版
脱・福祉で「もう買ったたかれない」



・ 2023.08.21 毎日新聞
プライドをかけて

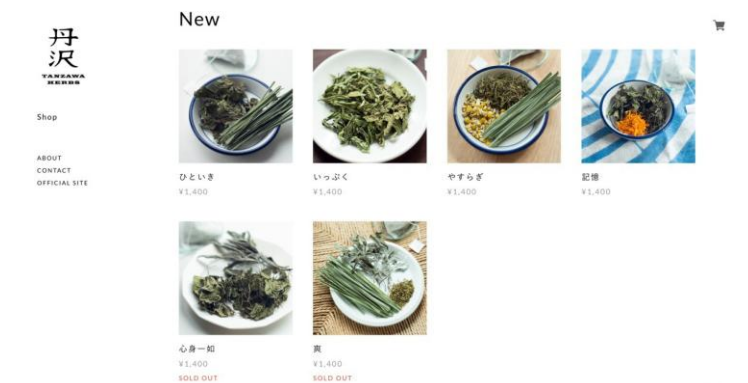
インスタグラム



WEBサイト



ECサイト



4年を迎えての課題

- ・生活介護事業所の参画

当初は生活介護も巻き込んで、花苗作りからシフトする予定だったが、重度ケースの多い生活介護では、参画できるところが少ないことが分かった

- ・支援と販売のバランス

利用者中心に支援優先に考えるのか、商業ベースで生産量を優先するのかというジレンマを常に抱えており、この両者のバランスをとることが課題の一つとなっている

- ・暑さ、寒さ対策

日中支援のため、時間を分けたり、変更すること（朝夕と断続的に働くなど）ができないため、夏は暑さ、冬は寒さとの戦いとなり就労環境への対策が急務となっている

- ・人材の確保

育成から生産管理まで作業は多岐にわたり、クオリティを維持するため、それぞれに専門性が高くなっている

そのため、人材不足を補うために外部に委託することも視野に進めている

まとめ

1. 「関わる人が同じ方向を向いて取り組む」

プロジェクトを立ち上げて何よりも行ってきたのは会議である

支援や生産の両立は難しく、相反することも多くある

そのため、目的を確認してそこへ到達するための道筋を共有してきた

とても難しいことだが、目標を達成するためには必要な作業である

2. 「ストレングスを活かした連携を行うこと」

学園はこれまで、支援と生産は行ってきたが、販売のスキルはなかった

商品開発、ブランディングなど外部の専門機関（コンサルタント）と協働することで

商品の価値を作ることができた

また、法人本部のサポートもあり、販売実績や売り上げを立てることができた

- ・今後の展望として、求められる新製品の開発とプロジェクトの拡大

今回の検証を踏まえ結果として、SNSが主流のこの時代に遅れないような福祉の考え方や事業所の運営、作業や商品が求められていくのだと考える

そして、デイケアセンターが福祉の質を変えていくことにつながっていく



土と水と手と。

*購入はこちら

WEB



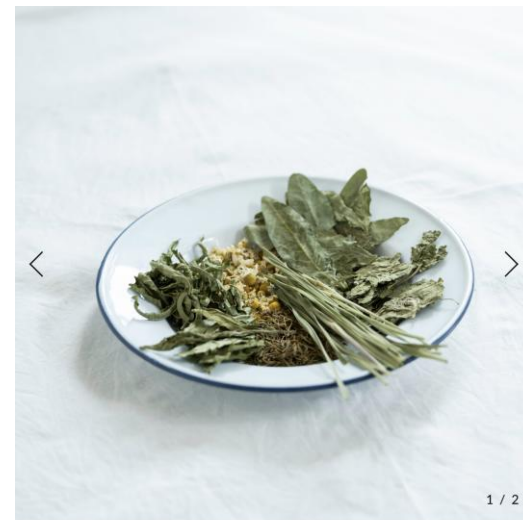
WEBサイト



インスタグラム

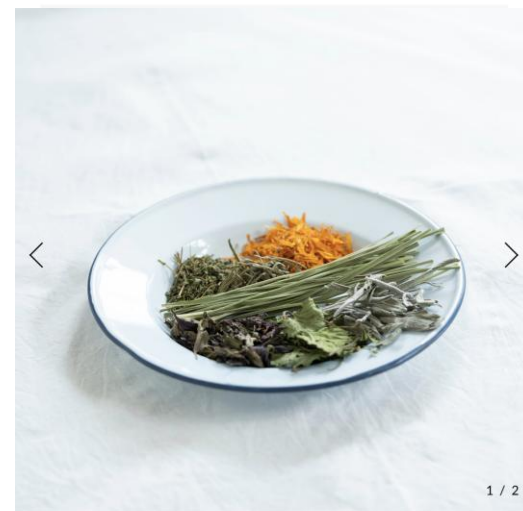


自社ECサイト



1 / 2

静心
¥1,400



1 / 2

ひらめき
¥1,400